

せ、ことごとく品川沖へ流し、水葬になさせられしといふ。按ずるに、正徳六年は六月二十二日に改元あつて享保元年となれり、彼明暦三年の火災に、十萬八千人の焼亡は、當時猶言傳へて怖るれど、享保元年の天行病に、數萬人の一時に死亡せしを、後に傳へて言ものなきは、火難と違ひて、書留しもの、鮮き故なるべし。

〔鹽尻 四十五〕一享保元年丙申夏の初メ以來、諸國疫癘流行して、我尾府は南熱田海邊ことに比屋死亡する者百を以て數ふ、五月の末猶病に臥者一千九十餘人と聞へし也、醫に命じ藥を施さしめましますとかや、

〔時還讀我書上〕享保十八年辛丑十二月、飢饉ノ後、時疫流行セシニヨリ、官ヨリ望月三英、丹羽正伯ニ命ゼラレ、治時疫方ヲ集メ、又凶年ノ時ハ僻地ノ民、雜食シテ毒ニアタルヲ以テ、解食毒方便易ナルヲ撰バシメテ、町奉行所ニテ上木ナサシメ、都鄙ニ頒行セシメタマフ、其方ハ醫說ノ大豆甘草ノ方肘後方ノ藜荷根ノ方ナド十一首ナリ、其後天明四年甲辰、諸國ニ時疫行ハル、トキ、天保八年丁酉、荒歉ノ後ニモ、再其方ヲ頒タシメラレタリ、國家仁慈ノ政至レリトイハザルベケンヤ、〔救瘟袖曆〕新ニ冷疫ト云ル名目ヲ設ルコト

安永ノ初、長夏流行病アリテ、死亡塗ニ相望メリ、其症種々異同アリトイヘド、ソノ始多惡風肌熱、水瀉嘔吐、不食ニ起リ、煩渴譫語吐衄血ナドニテ、日ヲフルマ、ニ沈重ニ至リ、醫皆手ヲ束ネタリ、一老醫寐ビエヨリ起リタルトテ、張景岳ガ五君子煎ヲ投ジテ、嘔吐不食煩渴譫語ナドヨク除キ、救療尤多ク、遂ニ疫ヲ治スル一良法トセリ、人參、白朮、茯苓、○工藤、茶、干姜、甘草、予平助モ亦此ニ倣テ得ル處多カリシ、陳皮半夏ヲ加テ七賢湯ト名テ施モアリキ、其後ハ稀ニテ久ク廢シテ用ヒザリキ、按ズルニ、予ビエト云病名ハ、我邦ノ通言ニテ、寢中ニ冷ニ感ゼシハ、腸胃中ニ舍ルナルベシ、是故ニ寒熱腹痛水瀉ヲ以テ、予ビエノ症トセリ、皮表ニ在邪ト異ニシテ、月日ヲ經テ經ニ傳ルトイヘド、イツマデモ